

第2回「産山村家族介護の会」を開催しました！

12月14日(月)、村高齢者支援センターにおいて、第2回産山村家族介護の会が開催されました。当日は、自宅で実際に介護を行っている6名の方が参加され、認知症に関する学習を行い、グループワークをとおしてそれぞれの思いや体験を共有しました。



認知症について今回学んだこと

○注意されたこと自体を忘れてしまうので、張り紙は効果的である。

○大事な物ほど奥になおし、しまったこと自体を忘れる。

➡ これは記憶障害である。

○「服を着て」がわからない。

➡ その動作自体や段取りを忘れてしまう。

➡ その都度何度も教えてあげることが必要。

○認知症は見た目ではわからないので、周囲に誤解されやすい。本人も色々なことがわからなくなっていて、苦しい思いをしている。それを理解した上で、対応することが大事。

皆さんの感想

○会に参加するのは勇気が必要だった。介護の話をすることに抵抗を感じていたが、皆同じなんだと思うことができてよかった。

○外では穏やかな人に見られているが、家で夜になると様子が変わるなど。家族にしかわからない辛さがある。こういう話を聞いてもらおうと少し楽になる。

○ここで聞いたことを帰ってから家族と共有したい。身近な人が認知症になると認めたくない、見たくない、理解できないという気持ちになる。それが病気であるという認識を共有していきたい。

○仕事をしていると、夫に怒られる。息子に「もっと言い返さんと」と言われるが、「昔はいいとこがあったのよ」と思って寄り添っていきたい。

次回は令和3年1月18日(月)の午後2時から、村基幹集落センター大会議室で開催します。初めて参加される方でも大歓迎です！実際に介護をされている方、介護に興味のある方など、ぜひご参加ください。

参加を希望される方は、役場健康福祉課(25-2212)までご連絡ください。